

招請状

佐々木三三 展覧

我々の理化学部の創立者。我々は70年6月安保闘争以後、全日共共闘及び日大共共闘の解体を自らの学部を創り上げるため、自立化への道を歩み出した。69年秋の敗北を6月以後、全日共共闘、そして日大共共闘（を名乗る部分）はより個定化し続けた。我々はどの敗北の個定化をいちはやく6月の電気学科のクラス会を保障しなされた事々ら認知したが故に、独自運動へと我々の思いを自立化させた。

我々は運動を通じて連帯を求め、習志野における右翼支配の中を1年生は独自の運動を展開した。巨高六郎、折原浩、鈴木研二の議長会にみられた右翼の弾圧（木口をまとっての集会被弾）に彼等は十数名で集会を貫徹した。幾帳1年は白紙=思想調査表をみつけられた事も、自らのクラス会を貫徹し、数学、電気、互利の1年と共に11月2日、300名集会のクラス会を行って11日。

習志野祭の中で、上記の議長会と同時に行われた木村執行部の議長会は何等情態をうけた。また上記の三氏を呼んだ責任者、物理科対し物理教室会議は処分樹形を功効形をみつけてきている。物理教室会議-右翼-学校当局、一体となつての弾圧は新たな支配体制の確立、すなわち日共-右翼-権力、一体となつてこの党内支配新3年計画をテコとて押し進めよう。日共=民青の日大前争闘実行委員の再々ゴッチあげ、理互への右翼カ-トマンの登場、そして11月9日に行われる木村執行部の新理営路線の議長会（教職員への）、上記の支配体制確立とは決して無縁ではない。

我々は習志野の理互・生大の学友を孤立させてはならない。また不当処分をうけた日大高等看護学院の学友を孤立させてはならない。我々は自らの運動を導いて彼等との連帯を確ちらねばならぬ。

我々日大社会学部は全このフランクシモン、研究会に対し次の議題として公議を行う事を招請する。

- ① この間の各フランク、各研究会が自立した運動の中を勝ちとった運動の象の展開とそれらについてこの論等と習志野1年のこの向の運動の展開。
- ② 11月9日に行われる木村学部長の新理営路線の教職員への説明会をどの様に招き、運動を形成するの。
- ③ 理互各フランクシモン、研究会の連絡会議形成について。

日 1970年 11月18日（*）

時 PM5:00 ~ PM 10:00

所 日大理学部7号館サークル室

以上

招請者 日大社会学部